



法隆寺寶物考證
中

子 1
1098
2





塗金長幡

推古天皇十四年の物なり是と大灌頂幡と云
 推古天皇二十一年の秋七月新羅遣大使奈末
 智洗而任那遣達摩奈末智並嘉朝仍貢佛像一具
 及金塔并舍利且大灌頂幡一具小幡十二條と云
 是なり其後養老六年十一月丙戌の紀に灌頂
 幡八首道場幡一千首と云是なり是なり翻作
 名義集刺摩と注して此云竿即幡柱なり法華云

表刺甚高廣此由倭倭高顯大為金地標表故以聚
相長表全刺如法苑云即晉王取金華金幡懸諸刹
上塔寺低昂と云金華金幡の類なり
西大寺
資妙帳
大小幡六流香七四尺七寸以金洞書
拍弄雜玉と云つて飾と云はれりや

琥珀神咒教

皇太子常生少子信所持の念十野妹子良の持来
るゝあゝ云常生の夏と記得とハ獨美此小香
羊祜の常生少子姪美と云銀と標と得たと
と洞夏此小胡沙門中書令王眠々あゝ生と云
了て外西の俗と解未是と云國の珠身此を

あゝたゝと云上言法多法具と求先たまひ
と云々相似と云琥珀を博物志に松脂滴入北中
千年化為茯苓又千年化為琥珀一名江珠と云い
元中此のハ楓脂滴入北中千秋為琥珀といハる
松楓の異い事、孰、是なりと云ハるは松達此ハ
漢武帝宝鼎元年西方貢称怪有珀燕置之静室自
於宮内飛翔と云ハるハ漢代より世に云ハるハ物
トハハ漢書西域傳ハ蜀廣國出瑠璃琥珀と云
る其の種類ハ雲魄梅花琥珀水銀琥珀鑿華あま
たあゝと云ハるハ咒教を鑿と云ハるハ本

州之瑞柏千年者為聖狀似玄玉黑如仇漆と云也

佛水飛

上言法多生希生後生は随月あり法具あり
といふも梵網戒經に菩薩行の法時及進方時行
來百里千里此十八種物常隨其身といふも十八
物の才十二と籠といふ寄席傳に梵云軍持此云
瓶常貯水隨月淨といふもて用ハつくと云

佛鉢

一々言齋僧惠忘とて傳と出で鉢鉢一と五供法
鉢階然とて小所姓と長の持事と一と一と一と

達磨大師とて念禪法ゆへ所屬ありとて鉢は長
持事とて水と高齋惠忘と日本書紀推古天皇元
年皇太子習内教於高齋惠忘といふなり是達
磨大師の梁中大通元年小遷化なりは皇初健体
天皇二十三年也 天保十三年也 千三 廣興記
小瓦言和尚持鉢鉢入定款時則鉢内大光燭天
遠霽破雨則鉢中白氣上昇遠雨といふなり
梵網戒經十八種物の才二と鉢とありは佛骨經上
卷小四種の鉢といふなりは本鉢瓦甃といふ
事十八和抄小僧禪鉢地羅者受四鉢也といふ事

法鉢の著書と四律と云々
色赤色と云僧祇律と董鉢作孔雀咽色鍋色
法と云善見律と鉢鉢五董已用土鉢二董已用
五倍と云解と云東院併徑并資敷系と
鐵鉢一口右上古聖德法王持物矣天平九歲次
丁巳二月廿日律師法師行信推覓奉納賜者
今案と云小鉢ハ唐韻小針なりと云後倍とハ
後と針と云修補と云と云云と云人但定因
法印持見と云

心心之之法法と云と云後後の世の世と云と云
と云と云其物其物と云と云
と云と云五倍五倍と云と云五百六
十六年十六年所見所見世鉢世鉢因徑因徑七寸四分七寸四分高四寸六
分分積九百十九寸積九百十九寸七分七分聖者聖者高高今京鉢今京鉢小
て一鉢一鉢八合八合五白五白余余と云と云四分四分五五尺尺ハ四
合合六寸六寸三分三分五五抄抄計計と云と云後鉢後鉢のの一一鉢鉢と云と云後鉢後鉢
ハハ法鉢法鉢大大宝宝制制令令のの穀穀鉢鉢四四鉢鉢と云と云
と云と云上上言言法法王王のの時時のの量量ハハ令令前前鉢鉢と云と云法法
量量と云と云行行信信法法師師上上言言法法王王持持物物と云と云

竹分と誤りし事

錫杖

上宮法王若生く持とあり云く云く南北六朝
の物ありし一杖銅戒杖十八物の声三錫杖とあり
て杖一ハ曰疎棄置為堅牢故用銅若銀作之蓋其
所愛用之像非一智為乞食受出本律菩薩五為驚
戒任
表持出即律謝為方海用出毘奈耶十八物為杖
小見しし法顯記那揭國有大餅寺本中有錫
杖長六七尺許以筒盛之百千人舉不能移しあり
ハ異常のものの地云し第一ハ梁簡文帝の錫杖誌

ハ妙節嘉光遊至振為標立霧轉騰雲鳳躍永異
玉神長踏金錯あり

又考つし錫杖の中ハ五種塔形と作しし事々
法苑謝尚愛其又告之曰西南有氣至衝人必死
建塔寺可讓未暇立寺可杖頭創作塔形氣未指之
即回散園門獲空氣可任也教里無後子遺しあり
是亦しし事とありしハ可少しし事とありし事

東院資妙寺古標錫杖一枚古上宮聖德法王所
持物矣大僧劫行信法師推覓奉納新標錫杖一枚
奉納法隆寺僧延量し又由今しし事とありし事

攝錫杖なりしは翻譯名義集に義律云二股六環
是伽垂仁製表四股十二環是教迦私製とあり

栴香炉

用明天皇所造平倉山新念のたれ上宮法王は
ちひさきまひしは法の供養の皇子
ふもちひたまふ物と号中言して法華經講後
日月ひあまひしは皇子は法のまき山皆
大兄皇子申祈禱とありしは翻譯名義集に
てたれしは用明天皇は征伐祈禱のときと日本
書紀に二年四月丙午新嘗于盤余河上是日天皇

得病還入於宮群臣侍焉奏曰天皇崩于大殿
なりしは推古天皇十四年皇子亦謀法華經於
岡本宮天皇大夜之怖大園水田百町施於皇子
因以納于報鳩寺とありしは法華經講後を推古天
皇十四年のことなり是歲報鳩寺を納むとあり
ハ法隆の地蔵もまゝ十四年の事なりとあり
ハ法隆寺の山者大兄王を重徳とありしは
を蘇我馬子大兄の女なりしは平氏を子たりと
あり

東院資妙傳云鑄石香炉一具花形錦坐具之奉
納講法華經料大僧於行信之所也世四種此内
ノ中鑄石ハ玉篇云似金ト云格古要論云自然
之精之今炉甘石煉成者假鑄也崔昉曰銅一斤炉
甘石一斤煉之成鑄石真鑄生波斯國者如黄金燒
之赤色不黑ト云一説云小量見悉古之丹眉流國
産鑄石ト云云了了又大永四年卯卯月二
十二日大和國添下郡池内興弘法隆寺聖靈會香
呂梵音瓦左方汝法人懐曉極海の四十一字と鑄
之ト云あり

針筒

上言法王前生少々之衣裁値の針筒なりト以テ
ハ南北朝の相なり了魏武帝上雜物疏ハ中言
雜物象牙管鍼一枚トありハ此物ト云ハ水トけ
之ハト云ハ漢魏の同法ありト云云ト云ハ
之礼内則云石佩之箴管係續謹繫表ト云ト云フテ
考ハ之ハ箴管既ハ三代ト云ト云ハ之ハ水ト
物ト云ト上言法王は物ト云ト了内則ハ一云と親
視ト云ト云ト了了是愉快ト云ト云

経集

一、用明天皇宸翰法華經八卷と並に小
所妹子将易と云ふ事ありて曰く法華經と云ふ
た日用御天皇の天保十三年より千二百五十六
年希小菅御小所妹子将易の年の事と云

経筒

赤旗檀の枝なりと云本州徳島小紫檀白檀伝世
之旗檀といひ大明一統志凡哇國土産檀香樹典
葉似荔枝と云貝原損軒八歌女の赤旗檀といひ
といひ紫檀なりといひと云つて此材ハ紫檀といふ
といひ吾書小陸橋以竹筒盛書信繁黄耳犬頭送至

其家といひハ一時の意巧なりといひ錢託、嬰侍
郎小卿の青竹筒に小楚竹青玉圓徒良湘水法鹹
書直節君子如虚心と云ふ事ありて曰く書筒
といふ古樂府に石未如殘雪結成雙輕莫要知心
裏事看云腹中書といひといひ書信の長一尺ありて
籠といひハ今経筒曲尺の九寸八分ハ高し即座
大尺天平尺と符尺を以書筒もハ唐代の物
なり
東院資妙系小経杖一合浄香長一尺一分九廻六
寸六分といふ廻といひハ乃是希き杖なり依之

考少し、此徑筒の法量今おかしき尺の九寸八
分と一尺一分より凡ハ今又九寸七分と一尺と
其信免書て依案尺考と昔と申今尺九寸七分と
凡ハ今又九寸七分の六寸六分ハ今尺の六寸四分なり
周六寸四分と置て徑ととハ二寸法と合
日そ奇し、以ハへき形と噴吹糸又云右為致重上
古重徳法皇御持物法華徑、天平九年歲次丁巳二
月二十日、養和元年、皇太后宣奉納賜者と云、物、寸
ハ、光仁皇后の造り也、たき、ハ、高、ハ、竹、ハ、天保十
年、と、一、千、百、六、十、年、前、ハ、高、ハ、と、一、と、一、と、ハ、株

子臣持身と云ハ、持身、ハ、誤、ハ、定、同、法、少、也、見、
玉匣二つと三つとなきは法、と、つ、と、小、入
て、二、つ、と、ハ、
と、と、と、ハ、ナリ、と、云

徑机

表ハ沈水香瓶竹の縁象牙の足、株、ハ、長、持、身、の、物
と云、隋代の二年、小、出、と、の、貴、孫、奇、と、一、と、き、
座、り、ん、や、た、と、一、と、を、徑、机、と、い、ん、ハ、め、ハ、あ、
ん、書、葉、と、い、ハ、カ、を、い、と、き、ハ、魏、帝、上、難、相、疏
ハ、此、物、有、純、銀、鍍、帯、漆、画、書、葉、一、枚、と、云、ハ、の、形、ハ

ヤア〜

天平宝字五年

東院資成太子經德坐二具一推竹床子象牙為足
在鳩法禱在天平十四年歲次壬午二月十六日正
三位橋夫人宅奉納賜者と云々ハ世經机ヲヤ
ア〜ハ經德坐ト云々ハ世經机ヲヤ
仁小天平五年正月庚戌内命婦三位縣犬養宿禰
三千代美遠從四位下高安等監護喪事賜喪儀准
敷一位命婦皇后の母也十二月辛酉送一品舍人
親王等就縣犬養橋宿禰牙直
詔贈從一位別初莫收食封資人ト云々則淡海云

不比の室家トテ光明皇后の母也

油注

善住院覺賢僧叔小油注ハ推古天皇宮中而考
子所用トあり推古天皇ハ孝浦宮トテ天皇信小
即之ヲ云ハ十一年十月小墾宮小遷ト云々トハ
世宮トテ岩沖マ〜〜キ地處ト考ル〜ト云々市
郡孝浦の南小橋福測ト〜〜橋の地即小墾田
宮江田地ナリト云々日本元通後ハ孝浦村の
内〜ハ玉林社トハ小墾田真小法田口名吳字也
今時大併供ト云々トハ小社ありト云々其宮高ナリ

とつて孝浦言ハ大郡國の北より旧元興され
安サリといフ事 元興は後小平城に移りて新元
興事といふことにて孝浦の事旧
元興事といふ

或云土官法王祖施寺より帝小用ひたす事
之ハ祖施言といハ平群郡法法寺村東流の地
といハ日本紀通鑑小又一ハ事なる日本書
紀ハ推古天皇九年春二月皇太子居祖施言十四
年皇太子亦讓法花徑於同本宮天皇在之播廣國
水田百町施于皇太子以納于祖施言といハ
つて考ふといハ推古天皇九年二月ハ此の言此

夏ありて十三年のころハこういふ事ハ十四
年のハ宮室と寺となりてせらと一といハは年間
小用ひたせりといハ事の苦なりといハ隋代の製
なり

伎楽面

日本書紀推古天皇二十年百濟人味摩之淨化曰
學于吳得伎樂傳則安宅櫻井而集少年令習伎樂
傳といハ味摩之ハ將表の面なりハ天保十三年
より千二百三十一一年ハ事なり西蕃ハ隋大業三
年ハ高麗ハ其ハもハ望陳の地なりハ其の樂も亦

疎後主張兼章君臣酣歌倡和の送凡ちつて大
宝職員令雅楽寮改の條小仕樂謂呂乐亡腰鼓亦
為呂樂等とありハ文武天皇のころハ雅楽改の
所管となりしとあり天平宝字五年八月の紀
ハ奏呂樂とあり朝廷ハ舞ハレハ奏ハレハ
日本儀紀大日四年の条小伎乐ハ師二人小定先
らレ後日本儀紀天長十年四月古酒門左と詔二
府とも呂樂と執ると云ハ伎乐人なりしと云
伎と云とハ詔と云ハ延喜雅楽寮改ハ四月
八日七月十五日斎會ハ伎乐人と東西二寺ハ分

不夫と云と詔と云ハ延喜雅楽寮改ハ四月
八日七月十五日斎會ハ伎乐人と東西二寺ハ分
形杜屋村ハありしハ杜屋村ハ今國島小村と
云十市郡梅井所の坤長門里辺高基上ハ土俗家
と云ハ不夫と味摩之ハ伎樂と云ハ一ハ云ハ
但ハ不夫録ハ南都宋人柏氏ハ伎と云ハ無福と
全堂ハ於テ四月八日申刻世曲と奏と云ハ一ハ
云ハ西大寺資妙院訛謬ハ云ハつて考ハ云ハ法乃
二面一而志色とあり今本寺花中ハ鬼ハあり
神ハ形ハ云ハ男女ハ切ハ云ハ云ハ云ハ云ハ
法道ハ云ハ云ハ又獅子二匹獅子鬼四面ハあり本

子花中子又子多水子 吳公二面 一面相白在 未

物鳳物 並雲形保一面墻在在 吳公在 本寺在 八尺

東大寺八幡宮在 花の位在 案面

白面男子山形押金在 青面男子山形押金

小果草之重在 吳公在 金別

二面 面相在洞宇受 一面墻本寺花中在 吳公

盤二在 在本書在 又在 迎接羅二面 一面相一面

本寺花中在 吳女二面 一面相在洞宇受 本寺

又在 吳女二面 一面相在洞宇受 本寺

又在 吳女二面 一面相在洞宇受 本寺

了婆羅門二面 一面在馬髮頂押金 洞載物在 地

押金銅載物在 本寺花中在 吳女在 瓶二面在 一面

馬髮並頂押金 本寺在 又在 瓶鬼四面在 馬髮

本寺在 又在 碎胡王二面 一面相在皮 地毒在 徒

等飾保一面墻青皮 本寺在 又在 碎胡徒十六面

並頂押金 本寺在 又在 四十六面在 枕

三合在 本寺在 又在 八二十一在 枕

五在 枕

御書

所儀并小室交の住當方々階書礼儀並所御烏

以後是之唐六典より凡百官并服烏皮履と云ハ
隋唐の臨江物より夏朝と定む

仲聲

勝曼任律例の日月ひりし一ハ聲なり元ハ高寺
小ありしとつハ推古天皇十四年の物ありて上
言法重三十四歳の時なりハ文獻通考ハ初聲梁
朝樂器也蓋今方魯類と云又新式所用銅鉢又
謂之聲蓋安右之耳齊梁間文士聲銅鉢賦詩亦梵
聲之類と云と云ハ世聲ハ有梁の臨江の器ハ
了つ一皇古子洋証して百年又ハ新の物と云

り中ありし
齊高帝建元二年日本雄略天皇十三
年ハ皇古子洋証して九十五
年ハ

軒裳

梁昭明太子徐書悞待上權影卷園池抽蓋淇水側
幸難細囊用斯因細女織とあり淇水側ハ詩ハ
賸被淇澳美竹加簣とつハ小依てハ細囊用とハ
標囊細素と云て淡青色の絹布とて之とを履
衣と作しハ巾とありと云ハ換と云ハ細女織
とハ絲とてありと云ハ物ハ昭明太子のころ
ハ軒裳ハ

昭明太子ハ中大通三年四月
薨日本法統天皇廿五年ハ皇

左子從生して四
十二年也

牙籤也。小法隆寺形より、是形を西京雜記に秘
關宗書皆表以牙籤。覆以帕。又李泌積書後用紅
牙籤。史用綠牙籤。子用青牙籤。集用白牙籤。とあり
は牙籤ハ白りれハ集於小冊少ハり、又其大不
女須踏履小模倣と云ふ、一ハ建久年中衣
大將頼朝ハの條補と云ふ、一ハ建久六年東
大寺供養ハ年々して天保十三年より六百四十
六年ハ乃ハ

廣東佛禱 蜀江佛禱 蜀江製

上宮法王祖媽言うて、法月ハあり、禱より是と
也。小法隆寺廣東より、ハ廣東ハ、廣東にハ廣州府
高貞揚州之南境、天文年、女分野、春秋為南越地、と
あり、日本にも、海上八百七十八里、と云ふ、通多今
ハ物産ハ、錦金銀あり、蜀江錦、魏文帝興群臣、論蜀
錦書ハ、米後、每得蜀錦、深不相比、遠可訝、而鮮卑、尚
獲不賣也、自吾所織、心意、危及連璧錦、亦有金薄、蜀
薄、末至法色、皆惡、是為下工之物、皆有虛名、と云ふ
比、頃々蜀錦と賞と、一ハ、蜀錦ハ、山深之丹
陽、故ハ、歷代尚未有錦、而成都、独稱妙、故三國時、魏

則市於蜀吳亦資西蜀至是始乃有之云延和
殿素式小袴之丈領一尺四寸絲三條綿五疋又
巾凡一一條ハ三丈三尺寸の領の一條の絲六
方十六條の紗と用ひし
神奈食の袴ハ帛三丈
暑布二丈一尺一丈
と用ひし云り無袴の都中祀石屏他袴若三丈用
錦縁之と云へハ錦縁袴東晉の始とありし交
明のう形也
石屏ハ東晉の咸和十三年と云り
主而建武元年と云り日本仁徳天皇の
廿三年とあり天保十三年
と云り千五百八年とあり

夏は袴

因情國社曾那の皇太子へ勅す物と云りハ唐府

雜詠小唐老子嘗買一錦袴有彼斯見之者則曰此
冰麗絲所織涼暑月陳於坐滿堂清涼とあり夏の
袴と云もの西著すと可見あり

巾傲

上宮法皇は物と云大宝織篋令小主殿素衣手供
巾輿鞞蓋笠傲履とありと皇太子宮屬のハ何
と云と書ししハ巾と云りハ隋書孔羨志皇太子
子奮軛衣書車為副十二乘駕半漢卑蓋朱表とあり
ハハ巾傲の如く云り

推古天皇在几帳

東京旧事小皇太子御妃有燕降綾帳ありといひ
正帳の如き物なりといひたゞいしは帳小塗金糸
小籠といひて飾りしといひていひていしは圓籠敷西小
柏玄の伴綾帳綾黄金毫五色羽葆流蘇ありといひ
古侍小紅羅襪斗帳四角垂香囊といひ油録研更
小蘇帳といひの類なりといひ

廣東錦小幡 蜀錦小幡

因本宮より月ひりつといふハ推古天皇十四年
の夏水戸勝鬘徑禪院ありといひ法隆寺供養も
といひ日本紀推古天

皇三十一年の紀小新羅貢小幡十二條とありといひ
法新ありといひ

香履浮牡丹花瓶

上宮法王百濟國より献じし物と云牡丹と稱
林玉露小牡丹自唐以來未有聞至長安時想文採
山乃得之とありといひ上宮法王は時魚家ありといひ
らけといふ人ありといひ百湯難姐小謝康樂集中
云水陸竹間多牡丹とありといひ劉宗の初より并見
あり日本元菴天皇のは宇小高といひ上宮香履昔も
法王より百五十年中ありといひ
秘色といひ上深衣物法王描花の巻小巾たといひ

やうに座のちのちと人々をまよふ河のささ
いさなしくと云はる

達磨大師聖蹟

菩提達磨尊者ハ梁大通三年十二月遷化日本
侍天皇二十二年十高上言法王降誕と云九四
雅四年丙辰と云推古天皇二十一年十二月
夜半朔片岡山と云云と云云飢者と云を連
磨大師なりと云云と云云物ハこの聖蹟ハ
飢者小腸と云云と云云天保十三年丁未
二百三十九年小月と云

